



男女共同参画推進室ニュースレター

olive・heart

研究補助者公募1/30まで受付中です

平成24年度 研究補助者配置事業 支援対象者拡大！！

平成24年度4月配置予定の研究補助者配置制度の申請の受け付けを始めました。この制度は、研究者が育児・介護等を理由に研究を断念することなく、研究と育児・介護等とを両立させつつ、優れた研究を推進することができる環境をつくる目的で行っている制度です。最終年の平成24年度は、すべての分野の女性研究者及び配偶者が大学等で研究に従事している男性研究者にも支援対象が拡大されました。なお、女性研究者の場合は、独身の方も利用できます。

この機会にぜひ、活用をご検討ください。

応募は平成24年1月30日（月）締め切りとなります。

詳細は男女共同参画推進室のホームページをご覧ください。

<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/jyosei/hojyo.html#20120117b>

★妊娠や急な介護・看護などの事由の場合は、受付期間終了後も、予算に
応じて、研究補助者の配置が可能です。どうぞご相談ください。



お役に立ちますよ！



目次:

ワークライフバランス制度について.....	2
香大こころルーム開設・便利な休暇制度...	3
学生向け啓発講座 上野千鶴子さん.....	4
インタビュー 小豆島ガール.....	5
各キャンパスでの啓発講座.....	6
教授会を利用した啓発講座.....	7
次世代育成キャリアデザイン講座.....	8
出前講座・相談コーナー.....	9
かがわ教育男女共同参画フォーラム.....	10
研究促進 全学研修会.....	10
中・四国国立大学共同宣言.....	11
第2回四国女性研究者フォーラム.....	11
内閣府の冊子「共同参画」に掲載.....	11
工学部石井明教授 副室長就任.....	12
ワーク・ライフ・バランス講座.....	12

香大っこルーム開設 個人に貸し出し中

香大っこルームは、ファミリーサポートやボランティアの託児に個人で利用していただけるお部屋です。ベビーベッドや給湯、電子レンジ、冷蔵庫も完備。専用のドアから出入りできます。妊産婦の休憩室、搾乳室としてもご利用いただけます。☆搾乳機も必要な方に差し上げております。どうぞお申し出ください。



香大っこサポーターがご利用いただけます

研修を受けた学生が、託児をする香大っこサポーター制度。サポートを希望される場合には、男女共同参画推進室へぜひご相談ください。

便利な休暇 看護休暇・介護休暇は最大5日まで

【看護休暇】 小学校就学前の子どもを養育する教職員が、子どもを看護する場合（けがや発熱・または定期健康診断や予防接種）に、最大5日（子どもが2人以上の場合は最大10日）利用できます。

【介護休暇】 日常的な要介護状態の場合は、子どもも配偶者も認められます。年度において5日（要介護状態の家族が2人以上いる場合にあっては、10日）を限度として、家族を介護、通院等の付き添いのために休暇を取得することができます。＊ いずれも休暇簿で申請できる使いやすい休暇です。

妻の出産を応援したいあなたに 夫が取ることができる休暇

【配偶者出産休暇（常勤職員のみ）】入院もしくは退院の際の付き添い、出産時の付き添い等のために、配偶者の出産に係る入院等の日から産後2週間以内に最大2日間取得できる特別休暇です。

【男性育児参加休暇】生まれた子への授乳、付き添い、上の子どもの保育所への送迎等のために、産前6週間～産後8週間の期間において最大5日取得できる特別休暇です。

育児短時間勤務等、柔軟な勤務体制が利用できます

【育児短時間勤務】勤務時間を短縮して勤務する制度です。短縮した時間は無給になります。

【育児のための早出遅出勤務】1日の勤務時間を変更することなく、始業・終業時刻を繰り上げてまたは繰り下げて勤務する制度です。

【育児のためのフレックスタイム制勤務】（対象外の職員もあり）コアタイムを除いた、フレキシブルタイムの時間帯においては、始業・終業時間を自分で決められる制度です。いずれも、小学校就学前の子どもを養育する教職員が対象になります。

休暇制度については、HPのワーク・ライフ・バランス応援ハンドブックをごらんください。



育児休業を取得した

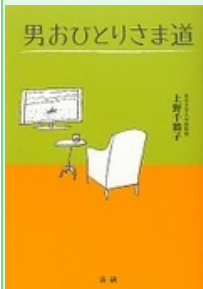
男性教員の声

第2子の出生時、妻の産休期間（産後8週間）のうち、38日間育児休業を取り、その後は年次休暇に切り替える形で、合計2ヵ月ほど休みを取りました。双方の両親が遠方な上、祖父母の介護に手を取られており、私が育児休業に入らないと生活が回らなかったことが取得の理由です。大変でしたが楽しいひとときでした。

著書紹介



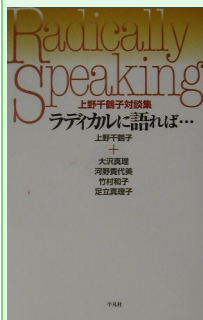
おひとりさまの老後
文藝春秋



男おひとりさま道
文藝春秋



スカートの下の劇場
河出書房新社



ラディカルに語れば…
平凡社



【最新】
ケアの社会学
太田出版

2011年の活躍が評価され、朝日賞を受賞！
おめでとうございます。
(2012.1.1発表)

学生向け男女共同参画講座

毎日新聞に掲載されました。2011.12.3

「夢みるユメオ君とユメコちゃんへ ～幸せな人生のつくり方～」

平成23年11月30日(水)、幸町キャンパスにてNPO法人WAN理事長の上野千鶴子さんを招いて学生向け男女共同参画講座を開催しました。一般の方の来場も多くあり、179名(学生70名、学内43名、一般66名)が参加しました。

上野先生は講座の中で、ネオリベ(新自由主義)時代に突入し、女性に加えて若者も、非正規雇用の使い捨ての労働力にされる中で、経済格差が深刻化していること。しかし、ポジティブアクションなど柔軟な働き方を認める「男女平等均衡型」の企業がこれからの時代は、実績を残していくこと。将来「性差別型企業」は多様性の集積という点からも、商品市場・金融市場・国際競争の面で企業間競争に敗北すると予想。厳しい社会情勢の中で、女性や若者が自立にむけて、長く働き続けるためにはそれぞれの意識の持ち方が重要であること。そして、世代を超えた連帯が求められることについて語りました。

「夢みるユメオ君とユメコちゃんへ～幸せな人生のつくり方～」の甘いタイトルとは裏腹に、「人が幸福になるために本当は何が必要なのか」について、社会学の視点から膨大なデータを用いて、論理的に熱くご講演いただきました。最後に、「私たちのつくる憲法前文」(中央公論)で優秀賞を受賞した17歳の女子高生、福岡亜矢子さんの考えた日本国憲法の前文で締めくくりました。

まったくもってタイシタコのない
世界的にみてソコソコの国がいい・・・
私たちから見ても一番幸せになれる国
そうなる必要は大いに有。

参加者からは「難しい社会問題をととてもわかりやすく話してくださり、あっという間の時間でした」「興味深かった」「社会に出る前に聞けてよかった」と多くの感想が寄せられました。

一般の方にも公開したため、学生が親御さんを連れて参加したり、世代を超えて参加者の質問に耳を傾ける場面も見受けられ、とても和やかな雰囲気の中での講座になりました。



講師プロフィール紹介 上野 千鶴子 氏

NPO法人WAN理事長
東京大学大学院人文社会学系研究科名誉教授

ウィメンズアクションネットワークHP
<http://wan.or.jp/> 賛助会員・WANサポーター募集中

素敵な女性にインタビュー 小豆島ガール

2011.4.15の四国新聞に「男性と違う視点で魅力発信／「小豆島ガール」誕生」という記事が掲載されました。島の女性たちが素敵なホームページを立ち上げ、小豆島の魅力を女性ならではの視点で紹介するというもの。ホームページを開くと、白い画面に青い空と海、オリーブの緑、白い砂浜そして、島の人々が静かに微笑んでいました。<http://shimagirl.jp/>

どんな女性が作っているんだろうと興味津々で、小豆島ガールの皆さんを訪ねました。11月初冬の済んだ空気の小豆島は、紅葉を迎え、一段と美しく島の魅力が満載でした。



小豆島ガールの皆さん

オリーブ公園の美味しいハーブケーキ



きれいなものをみつけに、山と海と風と空、
そして、島に住む女性たちの輝く日々を紹介します。

Q：小豆島ガールってどんな人のことですか？

小豆島の女性はみんな小豆島ガールです。島のおばあさんも若い子も、島に住んでいる人、島を訪れる観光の方も小豆島ガールとして島の魅力を伝えてほしいです。

Q：島ガール発足のそもそものきっかけは何だったんでしょうか？

小豆島では女性が活躍できる場所が少なかったこと、また女性目線で描かれた「八日目の蝉」のロケ地となったことなどから、女性ならではの視点で何かできないかと思いました。気がついたら同じような志を持った女性が集まりました。そして、何をしようかなと相談して、島の魅力を女性の目線で伝えるホームページを立ち上げました。島から一度出たことがある人、都会から小豆島に移り住んだ人など、職業も年齢も経歴も色々ですが、共通点はただ一つ。「小豆島が大好き！」ということ。それぞれが楽しみながら活動しています。

Q：これから小豆島ガールとしてやってみたいことは？

ホームページで、島の素敵な場所や島の魅力的な女性をどんどん紹介していきたいです。今、地元の方や観光客など素敵だなと思った女性の写真を撮っています。これから島ガールとしてHPで紹介していきたいと思っています。私たちの活動が、島に住む人たちにも、改めて島の魅力を発見するきっかけとなって欲しいです。

☆藤井さんと井上さん、そして仲間の島ガールも皆さんは、なんともしなやかに軽やかに、わくわくと活動を楽しまれていました。青い空、青い海、緑の山、澄んだ空気、小豆島から元気をたくさんいただきました。ちょっとお疲れの方は、小豆島に足をのばし、HPの“場所からみつけに”に掲載の「働く女性の気分転換コース」お試しください。

お話：小豆島ガール

藤井愛子さん・井上智子さん



小豆島ガール

山と海と風と空に囲まれた小豆島には、観光スポット以外にも魅力的な自然・文化・産業・島人などたくさんの宝物がいっぱい散りばめられています。その宝物に光をあて、「多くの人にその魅力を知ってもらいたい、好きになってもらいたい。」そんな思いで、小豆島に住み、この島のこと大好きな女性たちでプロジェクトを立ち上げました。（HPより）

参加者の感想から

- ・医療の世界に限らず、女性の働きやすい環境整備がますます重要になっていくと感じた。その最たる世界が病院だと痛感した。
- ・あまり若いドクターや学生の参加がなかったのが気になった。学生の早期教育の重要性を感じた。
- ・こういう研修を受けるべき人が出席してないというのが残念。

参加者の感想から

台風接近で、大荒れの天気の中、講師も参加者も、ご出席くださいました。ご協力ありがとうございました。

- ・自分の中にも潜在的な意識があると思いました（CMも説明をうけるまでは、特に何も思わなかったの）
- ・大学の客観的状況を大きな観点から知ることができ、有益であったが、その原因が述べられていないので、どのように改善できるのかははっきりしなかった点が残念である。学長が責務を果たすべきだと認識するだけでは、あるいは一人一人が気をつけるというだけでは、大幅な改善に進むことは困難と思う。

各キャンパスで啓発講座を実施しました

医学部

「大学全体の就労・研究環境改善から見た女性医師の働き方」

平成23年10月5日（水）に医学部にてNPO法人イージェイネット代表理事の瀧野敏子氏を迎え、啓発講座を開催しました。医学部では、教員や医師の若い世代は、4割近く女性が占めており、そのような中で、女性が出産や子育て、介護というライフステージと仕事とをいかに両立させていくかは、医療現場の大きな課題となっています。



瀧野先生には、大学としてのワーク・ライフ・バランス支援の重要性と特に多忙を極める女性医師の支援の必要性について、その背景や社会的情勢、具体的対応策など、先駆の事例紹介を交えながらお話しいただきました。

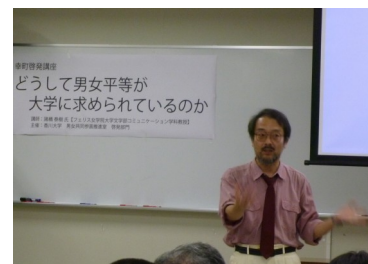
58名の参加者は、瀧野先生へ具体的かつ実践的な質疑を行うことで、議論を広げ、大学や附属病院の支援制度や実態を把握し、医学部における男女共同参画推進、ワーク・ライフ・バランスについてじっくりと考える貴重な機会となりました。

幸町

「どうして男女平等が大学に求められているのか」

平成23年9月21日（水）に幸町キャンパスにてフェリス女学院大学文学部コミュニケーション学科教授の諸橋泰樹氏をお招きし、啓発講座を開催しました。

講師の諸橋先生は、メディア、ジェンダー、社会意識などをカルチュラルスタディーズ、ポストコロニアリズムの立場から調査研究する傍ら、男女共同参画行政の審議会委員や男女平等推進センターの講師などとして活躍されています。



講座では、世界の男女平等のバックグラウンドと日本の男女平等の実態、政府の男女平等参画施策、少子・高齢化による日本の労働人口の問題や社会情勢の変化による影響などをお話しいただき、参加者は幅広い視点から男女共同参画についての知識を広げることができました。



テレビコマーシャルを参加者で視聴

教授会を利用した啓発講座は参加率が高い結果に

「香川大学の男女共同参画について

～次世代を育む女性教職員からイクメンまで応援します！～

香川大学において、平成22年10月から行われている男女共同参画推進と女性研究者支援育成の取り組みや、ジェンダーバランスに配慮した教員の採用の促進、構成員の様々な人生を包括する“ダイバーシティ・インクルージョン・マネジメント”が求められること等について、教授会を利用して研修しました。(長安副室長派遣)

工学部

工学部では、平成23年11月14日（月）に実施し、60名が参加しました。女性研究者支援の取り組みについて質問も多く出され、活発な議論ができました。また、感想は後日回収することができたため、参加者の疑問にしっかりと応えることができ、特に女性研究者の限定公募について詳しく情報提供をすることができました。

農学部

農学部では、平成23年12月15日（木）に実施し、18名が参加しました。男性研究者支援の拡大について質問が多くだされ、育児等に取り組む男性研究者の要望の大きさに驚かされました。工学部に続いて農学部でも女性研究者の限定公募について情報提供を行いました。講座では十分な質疑応答がなされ、情報提供と同時に情報共有ができました。

参加者の感想から

- ・女性や子育て中の教員、スタッフの支援が進んでいることが理解できた。
- ・小学校→中学校→高校→大学→大学院とリケジョを育成するプランはとても良いと思います。でも受け皿（就職先）が少ないのが問題かな？
- ・新採用時に女性ならば。
- ・女性限定公募を行ってでも確保し社会へのメッセージを送り、後進も育てる必要がある。
- ・女性教員が少ないのは、博士まで進んで研究者になろうという人に女性が少ないからでは？（男でもレアだが…）母集団の問題なので出口だけみても増えない気がする。ガールズパーティー等で女子学生に研究職の魅力を伝え博士後期への進学を勧めてはいかが？

情報提供 女性限定公募について「女性のみを対象として公募することは、違法ではないのか」

男女雇用機会均等法第5条において、事業主が、労働者に対し、募集・採用において性別を理由に差別的取扱いをすることは禁止されている。ただし、同法第8条において、女性労働者に係る特例が定められており、事業主が、職場に事実上生じている男女間の格差を是正することによって男女の均等な機会・待遇を実質的に確保するために、女性のみを対象とする又は女性を有利に取り扱う措置は、法違反とはならない。

事実上生じている男女間の格差とは、固定的な男女の役割分担意識に根ざすこれまでの雇用管理が原因となって生じている男女労働者間の格差であり、具体的には、男性労働者と比較して、一定の区分、職務、役職において女性労働者の割合が4割を下回っている場合であれば、格差が存在していると判断される。

女性のみを対象とする又は女性を有利に取り扱う措置を講じるには、これまでの慣行や固定的な男女の役割分担意識が原因で生じている状況を改善する目的が必要となる。

10月27日農学部



挨拶をする京先生



司会の杉田先生



宮本蓉子さん

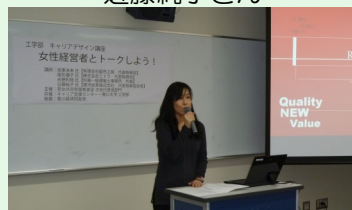


工藤りかさん

11月28日工学部



近藤純子さん



永野利枝さん



坂東未来さん



尾形優子さん

次世代育成キャリアデザイン講座

農学部では平成23年10月27日（木）、工学部では11月28日（月）に女子学生にむけてキャリアデザイン講座を開催しました。

第2回農学部キャリアデザイン講座開催

農学部では、株式会社四国総合研究所の工藤りかさんと日本たばこ産業株式会社の宮本蓉子さんを招いて、ご講演いただきました。お二人には研究生生活の魅力、学生時代に身に着けておいてほしいスキル、社会に出てからの女性ならではの強みと弱み、障壁、ワークライフバランスなどについてお話しいただき、53名の参加者は熱心に耳を傾けていました。ワークライフバランスを維持しながら仕事と家庭を両立し、女性研究者としキャリアを形成・構築している先輩から、具体的な助言を得ることができたとても好評でした。先輩たちの自信に満ちたイキイキとした表情が印象的で、学生が仕事も研究も子育ても続けていけると希望の持てる講演会となりました。



工学部キャリアデザイン講座

～女性経営者とトークしよう！～開催

工学部では、「女性経営者とトークしよう！」というコンセプトで、有限会社藍色工房の坂東未来代表取締役、株式会社ミトラの尾形優子代表取締役、利庵一級建築士事務所の永野利枝代表、東洋炭素株式会社の近藤純子代表取締役会長を迎え、ご講演いただきました。23名の方が参加し、年代もスタイルも異なる4名の経営者から、それぞれの多彩な体験談を聞き、「色々なお話を伺うことができ、見識がひろがった様な気がします」「たくさんのお話を聞くことができ、楽しかった。企業などは、考えたこともなかったが、選択肢の1つになった気がする」と好評でした。工学女子としてもものづくりや研究に取り組むことの素晴らしさを知り、自身の進路選択の幅を広げる機会となりました。



香川経済同友会から後援をいただき、一般企業の方も参加されました。また、参加された女性経営者の方々は、学生の話にも、熱心に耳を傾けてくださいました。

女性研究者次世代育成プロジェクト出前講座

「リケジョは輝く～あなたの未来をデザインしてみましょう～」

IN 高松第一高校

平成23年12月6日（火）高松第一高校にて、女性研究者次世代育成プロジェクト出前講座を実施しました。日本女性技術者フォーラム監事の中村立子さんの講演、中島先生の研究紹介、石井先生による工学部・工学研究科の紹介、女子学生による研究の紹介・相談と充実した内容はとても好評でした。

現役女子高生37名が参加し、参加者からは「日本の女性研究者が少ないことが問題であるということの重大さを初めて知った。女性が増えることで、これからの日本が変わっていくことが分かった。自分の理科に対する意識をしっかりと高めていきたいと思った。」「大学のことで、工学部のことがよく分かった。理系の女子ってどうなんだろう？と少し不安だったけど、今回の講座で大分見方が変わった。良かったです。」などの感想が多く寄せられました。先輩から素晴らしい経験を伺い、理系の魅力に改めて出会うことで、ロールモデルの少ない理系女子にとって進路選択や自身の可能性を考える貴重な機会となりました。

NHK「ゆう6香川」で報道されました。



中村立子さん

（日本女性技術者フォーラム
監事・川崎市教育委員）



学部生 中島さん



大学院生 宇高さん

工・農学祭 オープンキャンパス相談コーナー



10月29日の工学部祭、11月3日の農学部祭のオープンキャンパスで学生による相談コーナーを設置しました。秋のオープンキャンパスに引き続き、2度目の開催となりました。工学部では「先輩に聞こう！」をテーマに、大学院生も交え男女の学生がハロウィーンで雰囲気盛り上げ、工学部への進学を考える20名を超える男女の高校生の相談に応じました。農学部では、4人の大学院生が「リケジョカフェ」と銘打ってカフェを開設、農学部に興味を持つ32名の女子高生の方が参加しました。いずれも、高校生がお茶を飲みながら、和やかに学部や研究室のこと、進路のこと、独り暮らしのこと等、長い時間、先輩に直接質問していました。そして、同行された保護者の方も、先輩の話に熱心に耳を傾け、質問をしているのが印象的でした。

ロールモデル集 大変好評です。

工学部・農学部のロールモデル集が毎日新聞で紹介されました。オープンキャンパスや出前講座で配布中。



2500部配布終了しました。

講師紹介

中村立子氏：日本女性技術者フォーラム監事・川崎市教育委員



「素敵にサイエンス」

近代科学社
2008年

周藤由美子氏：ウィメンズカウンセリング京都フェミニストカウンセラー



「セクハラ相談の基本と実際」

新水社
2007年



東京大学大学院医学系研究科健康科学 上別府 圭子准教授

参加者の感想

知識や研究はやはり人を助けのためにあるという基本にかえらせてもらえた。”チャレンジの夢のげんきのもと”のキーワードが印象に残った。

かがわ教育男女共同参画フォーラム



平成23年12月7日研究交流棟にてかがわ教育男女共同参画フォーラム『次世代の未来を拓く～学校だからできる男女共同参画～』を開催しました。平日にも関わらず、高等教育機関、市内の高等学校、中学校の関係者36名の方が参加され、中村立子氏の講演「リケジョ（理系女子）は輝く～復興は多様な視点を生かして～」、高木健一郎室長、周藤由美子氏、教育学部理科教育 高木由美子教授による「リケジョに安心・安全な環境づくり～ハラスメントの予防と解決～」のパネルディスカッションがありました。

はじめに、香川県総務部県民活動・男女共同参画課の豊島貴子氏よりお話を頂戴、香川県の男女共同参画の方向性について情報共有しました。最終年である平成24年度は「中国四国国立大学男女共同参画シンポジウム」が香川大学で開催されます。香川県内、四国圏内、そして、中国四国の大学連携を深めて行きたいと願っています。

全学研修会

「女性研究者の科学論文作成への道」開催報告

平成23年9月9日、東京大学大学院医学系研究科健康科学 上別府 圭子准教授をお招きして、看護学科研究促進のための研修会「女性研究者の科学論文作成への道～ホップステップチャレンジ」を開催しました。

上別府先生は、長年病院等で臨床心理研究を進めて来られました。出産や転勤を機に、看護学の学位も取られ、心理と看護のダブルライセンスで、新たな研究の視点で取り組まれています。今回は、若い研究者の方々にむけて、臨床に基づく研究法と科学論文作成・科研費申請の基礎を具体的にご教示いただきました。

子育て中に大事なものは「自分は研究を続けていくんだ」という信念のようなもの。思い続けることで次につながっていく。両立という点では生活は大変。評価といっても「がんばってるね」と言ってくれる人は少ない。「いいんじゃないの、家庭に入れば」といわれがち。ネガティブフィードバックばかりだが、子どもの笑顔だけがたよりだったとご自身の体験を交えながら、研究法や科研費等の外部資金獲得について具体的に詳しく説明してくださいました。

中国・四国地区10国立大学共同宣言

男女共同参画推進のための共同宣言を行いました

中国・四国地区の10国立大学は、男女共同参画社会の実現を目指して、「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」を行いました。

この宣言文は平成23年9月27日開催の平成23年度秋季中国・四国地区国立大学長会議で協議・承認されたもので、平成23年11月11日に開催された第3回中国四国男女共同参画シンポジウム「女性研究者が活躍する大学～支援ネットワークの強化を目指して～」において森田潔岡山大学長が宣言しました。

女性研究者の比率を上げ、男女共同参画の視点をもった人材の育成と継続的な取り組みに向けてシンポジウムの共同開催や地域との協力・協働を進めることを目指しています。

第2回 四国女性研究者フォーラム開催

平成24年1月27日（金）、愛媛大学にて第2回 四国女性研究者フォーラム「若手の活躍促進～四国のマリー・キュリーを育てよう」を開催します。

本フォーラムは、第1回を香川大学が企画実施したもので、四国の女性研究者支援の連携と交流をすすめるため、大学・高等教育機関の協力のもと、本年度は愛媛大学が主催となり、四国の国立大学と共催し、継続開催します。

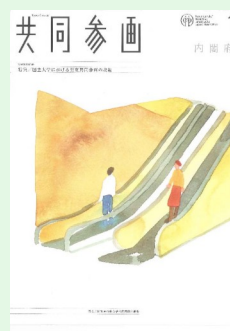
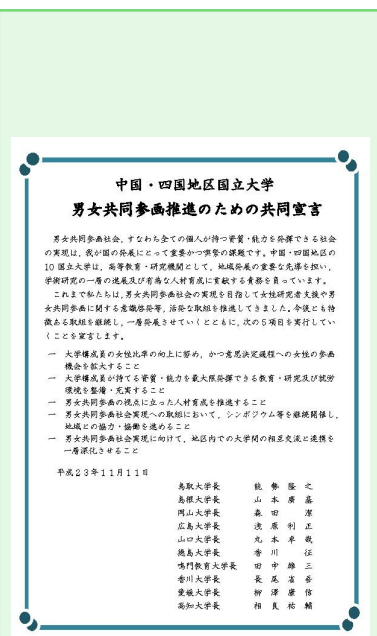
パネルディスカッションでは、教育・学生支援機構 西本佳代先生も登壇されます。テーマは“若手の活躍できる大学づくり”です。ご興味のある方はぜひ振るってご参加ください。

内閣府の冊子「共同参画」に香川大学の取組掲載

特集「国立大学における男女共同参画の取組」に香川大学

“地域ぐるみの女性研究者支援の高波を”の取組が掲載されました。

「共同参画」は内閣府の広報誌で、男女共同参画の関係機関に配られています。1月号は国立大学における男女共同参画の取組を紹介。静岡大学・金沢大学・本学の3大学が寄稿しています。香川大学の取り組みとして「四国女性研究者フォーラム」の開催や「四国国立5大学学長による男女共同参画推進宣言」など、四国地域の大学との連携が高く評価されました。今後も、地域ぐるみの女性研究者支援、男女共同参画の推進に力を入れてまいります。



「女性が元気になるれば 男性も元気になる」



新副室長 石井 明教授
(平成24年1月1日就任)

石井教授は2006年から女性技術者やリケジョの次世代育成に取り組まれた実績をお持ちです。やわらかな発想で素敵な企画を提案してくださいます。

どうぞよろしくお願いいたします。

発行



香川大学男女共同参画推進室

香川県高松市幸町1-1
北5号館1階

電話：087(832)1055
内線：1055
FAX：087(832)1057
電子メール：
sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp
ホームページ：
http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/

工学部石井明教授 副室長就任あいさつ

2011年3月10日発行のNews Letter Vol.5で男女共同参画と次世代育成についてのインタビュー記事(工学部 石井先生 次世代の女性研究者への思い)が掲載されました。その中の一文を再掲します。

Q: 次世代の女性研究者への思い

A: 研究者を育てることは地域ではなかなか難しいのだと思います。だから小学生の時から本物に触れることが大切。今は10年後の日本を思い描ける人材が必要だと思います。人が触れ合わないインターネットの時代だからこそ、若者に体で本物を感じ取ってほしい。文化の中で鍛えられている土壌があるからいいものが作り出せる。社会が混迷する今の時代、女性の出番です。長丁場の取組みはやはり女性なのではないでしょうか。男女共同参画を狙うのではなく、必然として女性が活躍していく時代になっていくと思っています。女性が元気になるれば男性も元気になる。女性が活発になれば男性も活発になる。女性が真剣に考えれば男性も真剣に考える。

発行日は奇しくも3.11東日本大震災の前日でした。この日を境として日本は大きく変わり始めています。また、変わらねばなりません。上述の回答では、10年後の日本を思い描ける人材と、長丁場の取組みができる人材が必要であることを述べました。しかし、東日本大震災からの復興は福島第一原子力発電所事故の影響を考えれば人の一生を越える非常に長期にわたる取組みとなります。その間、子孫世代にわたる放射性物質の影響を可能かぎり抑え、少しでも心豊かな高齢化社会の実現を図ることが重要だと思います。

この1月1日付で男女共同参画推進室の副室長の大役を仰せつかりました。長安めぐみ副室長をサポートしながら、息の長い取組みができる女性研究者の育成に貢献したいと思っています。

2012年1月17日(阪神・淡路大震災から17年経過)

募集中！ ワーク・ライフ・バランス講演会

平成24年2月1日13:30より、研究交流棟にて(株)ワーク・ライフ・バランス 小室淑恵氏の講演会が開催されます。テーマは「あなたが輝く働きかた 秘訣はワーク・ライフ・バランス」です。

ワークライフバランスは、時間を活かして仕事も生活も充実する方法です。プロフェッショナルな仕事をめざす皆さんは必見。時間の使い方に自信が持てない、いつも仕事に振り回されてしまう、そんなしんどい状況改善に秘策を伝授します。



著書紹介

「ラクに勝ち続ける働き方」

幻冬舎

2011年

小室淑恵氏プロフィール：株式会社ワークライフ・バランス代表取締役社長。多種多様な価値観が受け入れられる社会を目指して邁進中。ワーク・ライフ・バランスに関する著書多数。内閣府「仕事と生活の調連携推進・評価部会」委員など複数の公務を兼任。2009年より金沢工業大学客員教授に就任。一児の母の顔を持つ。